

名古屋丸の内ロータリークラブ Weekly Report		 世界へのプレゼントになろう。	承認	1995.3.28
例会場 名古屋クレスタンホテル TEL 052-264-8000 例会日時 木曜日 12:30 クラブ会報 広報委員長 安藤 正道 HP http://rc.nagoya-seinan.org/			会長	岩田 宏
		幹事	若原 正幸	
		事務局	名古屋市中区栄 3-29-1 名古屋クレスタンホテル 1007号	
		TEL	052-263-1324	
		FAX	052-263-0730	
		Email	seinan1@fancy.ocn.ne.jp	
2015-16年度 R.I.会長 K.R.ラビンドラン				
岩田 宏会長年度目標： 他クラブと友好の輪を広げ 名古屋丸の内ロータリークラブを知ってもらおう				

第959回 例会 No. 4 平成27年7月23日(木) 両
ガバナー補佐訪問

- ローターソング™ 「それこそロータリー」
- 出席報告 会員50名中30名出席
- 出席率 62.50% 出席計算人数48名
- 修正出席率 7月9日 95.74%
- ゲスト
 ガバナー補佐 近藤雅夫様
 地区副幹事 加藤令吉様
 分区幹事 櫻井 繁 様
 名古屋みなと RC 会長 杉江豊文様
 // 創立 50 周年実行委員長 深谷友尋様
 名古屋聾学校教頭 大脇千尋様
 吉田さんゲスト 宮崎憲治様

会長挨拶 岩田 宏

ニコBOX

ガバナー補佐 近藤雅夫様、地区副幹事 加藤令吉様、分区幹事 櫻井 繁様
 本日、ガバナー補佐訪問致しました。貴クラブの積極的なロータリー活動報告を拝聴できる事、楽しみにしております。

名古屋みなと RC 会長 杉江豊文様、創立 50 周年実行委員長 深谷友尋様
 名古屋みなとロータリークラブ創立 50 周年のご挨拶に参りました。宜しくお願ひ致します。

吉田さんゲスト 宮崎憲治様(入会希望者)
 例会見学で出席させて頂きます。

●本日はガバナー補佐訪問です。近藤雅夫ガバナー補佐、加藤令吉地区副幹事、櫻井繁分区幹事の皆様、ようこそお越し下さいました。会員一同心より歓迎申し上げます。本日はどうぞ宜しくお願い申し上げます。

岩田会長、若原幹事、山崎、小原、水野、後藤、吉田、安江、矢野、川原、成田、森田、堀江、西川、亀井、山鳥、田中、渡邊、磯部、立石、高山、有沢、奥村(敬称略)

松尾さん 武山さん、ブルーノート楽しかったです。ありがとうございました。

大岩さん ライブショー、楽しかったです。幹事さん、ありがとう。

田島さん 武山さん、先日の BLUENOTE 楽しい初体験でした。ありがとうございました。

長谷川さん 今月は私の誕生月です。お祝いをありがと

うございます。	
●100%出席祝	大岩さん
本日合計 89,000円	

会員一口メモ
 「弁護士費用について」 長谷川龍伸

名古屋みなと RC 創立 50 周年式典のご案内
 名古屋みなと RC 会長 杉江豊文
 // 創立 50 周年実行委員長 深谷友尋



寄付金贈呈

ゴルフ会会長 森田正樹
 創立 20 周年を記念して開催致しましたチャリティゴルフ大会の収益金を、名古屋聾学校の活動支援として寄付致します。ご出席頂きました教頭の大脇千尋様に目録を贈呈致しました。



ガバナー補佐講話

近藤雅夫(名古屋南RC)

皆さん今日は、本年度西名古屋分区のガバナー補佐を仰せつかっている名古屋南RCの近藤雅夫です。

本日はガバナー補佐訪問ということで名古屋丸の内クラブさんに於かれては、例会に先立って開催された会長・幹事さんとの懇談会を始め色々とお気遣い頂きましたことに御礼申し上げます。

また例会后には今年度の理事・役員・委員会委員長の皆様ともクラブアセンブリーが予定されていますので宜しくお願い致します。



さてまずもってガバナー補佐の役割をお話して皆様のご理解をいただきたいと思っております。

ガバナー補佐は英語では Assistant Governor で文字通り地区ガバナーの補佐をするわけですが、この地区2760地区は83クラブあってロータリアン数も本年1月で4,844人と日本で最大の地区です。2760地区を8つの分区に分けて私は西名古屋分区13RCを担当しています。ガバナー補佐の役割を調べてみますと、①担当クラブを定期的に訪問、少なくとも四半期に一度はクラブを訪問する。②クラブの現状をガバナーに報告。③ガバナー公式訪問に向けたクラブの準備を手伝う。④クラブ目標の達成状況を確認する。等と書かれています。

本日のガバナー補佐訪問はこれらを一度に行ってしまうというもので、何かと盛りだくさんの内容となりますので宜しくお願いします。

冒頭から申し訳ありませんが、地区からのお願いがあります。10月24～25日に栄・久屋大通り公園で第3回目となりますワールドフード・ふれ愛フェスタが開催されます。まず皆さんにお願いしたいのは、チケットの購入です。一枚2,000円でうち400円がチャリティーとなりますが、お一人2枚以上お願いしたいということは、丸の内クラブさんは50数名の会員なので全体で100枚以上を期待する次第です。併せて企業の協賛広告もお願いして欲しいとのことで、申込書は地区より既にクラブ事務局に送付されていますので宜しくお願いします。

最終日の10月25日はロータリー・ジャパNDERとなりまますので是非とも皆さんのご参加をお願いします。

今年度のこの地区のガバナーは加藤陽一さんで、瀬戸ロータリークラブの方です。1944年のお生まれで、ロータリーの入会は1996年ということです。ガバナーになれる方ですから、ロータリーの知識や情熱はどのロー

タリアンにも負けないものをお持ちですが、何よりも気さくな人柄で大変温かみのあるガバナーであります。

今年度加藤ガバナーが掲げられた地区方針は「ロータリーの原点に学ぶ」、サブタイトルとして～友情と寛容の輪を拡げよう～というものです。

地区の具体的な行動指針として、

- ①高潔なロータリアンを目指し、常にバッヂを着用する。
- ②例会に積極的に出席し、ロータリー活動を楽しむ。
- ③自主的クラブの運営。
- ④会員増強・退会防止。
- ⑤地区の改善・改革。の5点を言われています。

詳しいお話は、8月28日のガバナー公式訪問時に加藤ガバナーから直接その思いをお聞きいただきたいと思っております。

今年度のRI会長はスリランカの方でK. R. ラビンドランという方で今年度のテーマとして「世界へのプレゼントになろう」です。

強調事項としては、

- ①ポリオ撲滅。
- ②人道的奉仕を高める。
- ③ロータリーのイメージと認識を高める。
- ④オンラインツールの利用。 というものです。

私の個人的な感想ですが、加藤ガバナーはこうしたRI会長のテーマを受けて、敢えてという言葉と使わせていただきますが、もう一度ロータリーの原点が何かを皆で考えようという地区テーマを出された点に加藤ガバナーのロータリーに対する思いと申しますか危機感があらわされていると思っています。

ガバナー補佐研修などの地区の会議で加藤ガバナーが特に強調されるのは、ロータリアンにとって例会出席がすべての原点であり例会に出席する事でロータリー活動を楽しむ事と、ロータリーの基本は一つ一つのクラブであってクラブが自主的な活動を行うために地区があり、RIがあると言われている事です。

私は今年でロータリーの在籍が29年目に入りますが、入会したころに比べるとロータリーも随分変わって来たなという感じがしています。

入会当時先輩のロータリアンから繰り返し聞かされたのは、出席は100%が基本で例会に出られなければ必ず他のクラブでメークアップをする。ロータリーの奉仕は職業を通じて社会に貢献する事で個人一人一人の奉仕の精神が基本といった事等々、今思えばロータリーの原理のようなものを聞かされていました。

奉仕活動について言えば、過つての I Serve から We Serve へ変化し、RIの推し進めるポリオ・プラスのような団体奉仕へと変化してきました。

話は変わりますが、皆さん俳句の用語で「不易流行」という言葉をご存じだと思います。

「不易」とは伝統的に変わらないもの、「流行」とはその時々変化の事で、松尾芭蕉が俳句に取り入れてこの「不易」と「流行」が同時にあるものだということださうです。

ロータリーに於いてもずっと継承して行かなければならないものがある一方で、その時々々の社会情勢の変化に対応していくという両面があるのではないのでしょうか？

そこで、ロータリーにおける「不易流行」は何であるか考えてみました。

ご承知のようにロータリーの目的として第一に知り合いを広める事によって奉仕の機会とする、第二に職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事は全て価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアンの各自の職業を高潔なものにする、第三にロータリアン一人一人が、個人として、また事業及び社会生活において、奉仕の理念を実践する、第四に奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて国際理解、親善、平和を推進する事。の4つの項目が掲げられていて、それを実現するための活動としてクラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕と国際奉仕が四大奉仕として位置付けられています。

この4つの目的の中で、まず「不易流行」の「流行」、つまりその時々々の社会情勢の変化に対応していく部分としては、対外奉仕活動である社会奉仕と国際奉仕ではないかと思えます。

ロータリーの創立者であるポール・ハリスの言葉に「ロータリーが可能性を実験する為には、常に変化し、場合によっては大きな変化をしなければならない」という言葉があります。

対外的な奉仕活動である、社会奉仕と国際奉仕は時代の変化の中でその時々々に社会から要求、或いは期待される奉仕活動が変わって行きます。

ロータリーが社会の変化の中で変わって行かなければならない、あるいは変わらざるを得ない「流行」の部分はこの二つの奉仕分野ではないかと思えます。

このように考えれば、RIが対外奉仕活動に於いて従来と方針が変わり、団体による奉仕、継続的奉仕プロジェクトを推進している現状に一定の理解ができるのではないのでしょうか。

一方で「不易流行」の「不易」の部分、つまりロータリーがロータリーである為に変ってはいけない部分はどこかと申しますと、言うまでもなくクラブ奉仕と職業奉仕の部分こそロータリーの変わらぬ原理があると私は思っております。

ご承知のように、1905年にロータリークラブが設立されたときは親睦と会員同志の相互扶助を目的としたクラブで、奉仕の概念は後から出てきたものです。

クラブ内の親睦がしっかりと確立されて初めて他の奉仕活動ができるのであって、親睦の基本は言うまでもなく例会への出席と一業種一会員という原則にあります。

一業種一会員という職業分類の制約は現在では大幅に緩和されていますが、今でもその精神は生きています私は思っています。

加藤ガバナーが地区の行動指針として、例会への積極的な出席を強調されるのも、例会に出席してロータリー活動を楽しむことで会員同志の親睦が深まると考えておられるからだと思えます。

更にロータリーが他の奉仕団体と全く異なるのは職業奉仕という考え方を持っていて、会員の職業に高い倫理観を求めていることです。

ロータリアンは自らの職業における倫理基準を高め、

職業を通じて社会に貢献することが求められています。

ロータリーに於いて変えてはならない「不易」の部分とは、会員同志の親睦と会員の職業における倫理観を高めしていくこと、つまりクラブ奉仕と職業奉仕の二つの分野にあって、この二つの奉仕は今後も変わらぬロータリーの根幹といえる原理だと私は考えております。

ロータリーの本質である会員同志の親睦であるクラブ奉仕と会員の職業における倫理観を高める職業奉仕の「不易」の部分忘れて、対外的な奉仕活動の「流行」だけを追いかけていると、ロータリークラブは世の中にたくさん存在する奉仕団体と変わらぬ、単に規模の大きい奉仕団体と同じになってしまうのではないのでしょうか？

RIが世界のロータリークラブの力を結集して団体奉仕活動に力を入れる現状であるが故に、私ども個々のロータリアンそして一つ一つのクラブはロータリーの原点である例会への出席と会員同志の親睦、そして職業奉仕の理念をもう一度確認する必要があるのではないではないかと思っています。

加藤ガバナーの「ロータリーの原点に学ぶ」という地区テーマは変わりつつあるロータリーの現状への警鐘であり、一人一人のロータリアンへの呼びかけであると私は受け止めています。

本日は「不易流行」という乱暴な切り口でロータリー活動を分析しましたが、色々なご意見があるかと思えます。私もロータリー在籍が29年目で年齢も含めて「老タリアン」になりつつありますので、オールド・ロータリアンの繰り言としてこういう意見もあるとお取りいただければ結構かと思えます。

最後になりますが、名古屋丸の内RCさんに於かれましては岩田会長のご指導の下充実したロータリー年度となることを祈念して卓話を終わらせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

ガバナー補佐アッセンブリ 議事録

平成26年7月23日(木)13:40~15:00

名古屋クレストンホテル クラウンルーム

出席者 近藤雅夫ガバナー補佐、加藤令吉地区副幹事、櫻井 繁分区幹事
岩田、川原、森田、亀井、矢野、武山、山崎、磯部、後藤、若原、成田、渡邊、田島、西川、堀江、松尾



次第(司会: 櫻井 繁分区幹事)

1. 開会
2. ガバナー補佐挨拶

3. 地区副幹事挨拶
4. クラブ会長挨拶
5. 委員会報告(進行:若原正幸クラブ幹事)
6. 質疑応答
7. ガバナー補佐講評
8. 閉会



ロータリーの友「はじめる一歩」
 (ロータリージャパンウェブ【ロータリー関連資料】より転載)

(『ロータリーの友』2013年2月号掲載記事)

「ロータリー始まりの日」

それは、1905(明治38)年2月23日である。この頃は、自動車がよく実用化の段階に入ったばかりで、まだ馬車の方が巾をかきかしており、飛行機もそれより約1年ばかり前、ライト兄弟によって発明されていたが、ほんの2～3分間空に浮かぶことができるという程度であった。(日本で云えば、日露戦役の終わった年にあたる)

この年の2月23日の晩、米国イリノイ州のシカゴで4人の人がディアポーン街にあるユニティ・ビルの711号室に集まった。4人というのは、弁護士のポール・P・ハリス、石炭商のシルベスター・シール、鋳山技師のガスタバス E. ローア、洋服商のハイラム・ショーレーである。“ガス” ローアの事務所であるこの部屋は狭く、机が1つとあまり掛け心地のよくない椅子が四つおかれているほか、隅に洋服掛けがあり、壁には写真が1～2枚と工事関係の図表がかかっている。当時ありふれた事務所であったようだ。

4人は、ポール・ハリスが過去5年の間あためてきたアイデアについて語り合った。簡単に云うと、お互いの事業あるいは職業上の結びつきを通じて、友好的交友関係を築くことができるはずであり、またそうすべきであるというのである。仕事の上での関係が、友情の妨げとなることはない、と、ポールは考えたのである。

上記の文章は、「国際ロータリー・広報提供」として『ロータリーの友』1969年2月号に掲載された「ロータリーの始まった日」というタイトルの記事の冒頭です。ポール・ハリスが若いころ、5年の予定で放浪生活をしていたことは、ご存じの方も多いと思います。予定の5年に、3か月を残していたころ、弁護士事務所を開くためにシカゴにやってきた、と『MY ROAD TO ROTARY (ロータリーへの私の道)』には書かれています。

しかし、喧騒とした大都会で、彼は孤独を感じていました。そんな時、ポール・ハリスは、ある経験をし、そして、その経験が、ロータリーをつくるきっかけになりました。「ある晩、私は同業の友人に連れられて、郊外の彼の家を訪れました。夕食後、近所を散歩していると、友人は、店の前を通るごとに、店の主人と名を呼んで挨拶するのです。これを見て私は、ニューイングランドの私の村を思い出しました。

そのとき浮かんだ考えは、どうにかしてこの大きなシカゴで、さまざまな職業からひとりずつ、政治や宗教に関係なく、お互いの意見をひろく許しあえるような人を選び出して、ひとつの親睦関係をつくれぬものだろうか、ということでした。こういう親睦関係ができれば、必ずお互いに助け合うことになるはずですよ」と、前出の『MY ROAD TO ROTARY』に書いています。

1905年2月23日。ロータリーの会合が初めて開かれたこの日、その会合の前に、ポール・ハリスは、シルベスター・シールと夕食を共にしています。『奉仕の一世紀』には、「その日の午後遅く、ポールとシルベスターはマダム・ガリのレストランで夕食を共にし、親睦とビジネスを推進するクラブという構想について話し合った。(中略) 夕食後、ポールとシルベスターはディアポーン・ストリート127番地のユニティ・ビル7階にあるローアの事務所まで歩いて行った」と、書かれています。ところでこの時、二人は何を食べたのでしょうか。この質問に対する答えは、ここには書かれていませんが、『The National Rotarian』(『The Rotarian』の前身)1912年3月号に見ることができます。その中でポール・ハリスは「私は、シールと私がマダム・ガリの店に行ってスパゲティ・ディナーを食べたのをよく覚えています」と述べています。

皆さまも、二人のように、スパゲティを食べながら、ロータリーについて語り合ってみてはいかがでしょうか。

編集長 二神 典子



ロータリー100周年を記念して、最初の会合が開かれたビルの跡地に設置されたプレート

☆☆例会のご案内☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

◎7月30日(木) 休会

◎8月6日(木)第960回例会 会員卓話 有沢祥子さん

◎8月13日(木) 休会

◎8月20日(木)第961回例会 例会変更

「友愛夜間例会」フラリーエ(旧:ランの館)18:30～

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆